

ぼくと米

蔵王町立宮小学校 3年 加 藤 賢太郎

ぼくは、夏休みにお父さんとお母さんと秋田県の男鹿半島へ行きました。そこで、大潟村干拓博物館に行き、やく60年前、秋田県には、日本で2番目に大きな湖があったことを知りました。ぼくは、どうして大きな湖を田んぼにしちゃったのかなと思いました。答えは、二つありました。一つ目は、せんそうの後、食料や水の問題の解決策です。二つ目は、こう水ひがいの多かった八郎潟の湖岸地を守るためです。博物館では、むかしの人たちが、たいへんな思いをしてみんなのお米を作っていたんだとわかりました。

つぎに、男鹿市ジオパーク学習センターに行き、しょくいんのきくちさんにたくさんお話を聞くことができました。博物館で見たトラクターが泥にはまっている様子を見て、ぼくは、なんだかおもしろくて、少しわらってしまいましたが、八郎潟の湖の土は、とてもやわらかくて、その土地でのうぎょうは、苦ろうのれんぞくだったそうです。今でも、やく60年前に日本中から集まった人たちのそ先が、八郎潟でのうぎょうをしています。学習センターの帰りに、海面やまわりの土地よりひくい干拓地内をいじするための水路を見ました。いろいろなちえやぎじゅつがあるそうです。

ぼくの住んでいる町にも田んぼがたくさんあります。ぼくは、今まで田んぼを見ても、田んぼにいる生きものにしかきょうみがなかったです。でも、八郎潟に行くと、干拓やのうぎょうの大へんさを知りました。田んぼには、れきしがあることがわかりました。今、ぼくが食べているごはんにも、きっとたくさんれきしがあるのかなと思いました。

これからは、ごはんを食べるときは、気持ちをこめて、
「いただきます。」
をいいたいと思います。